

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394900035		
法人名	有限会社 愛和		
事業所名	グループホーム サンライフハートネス		
所在地	日進市米野木町追鳥47-1		
自己評価作成日	平成27年2月28日	評価結果市町村受理日	平成27年6月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26番地 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成27年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしい生活の場となるように家族的な生活空間として過ごせるように生活をサポートしています。ご家族との連携をとりその方にあった利用者のペースに合わせた生活を提供しています。地域のボランティア、学生との交流や地域の保育園児との親睦会など少しづつですが外部の方と触れ合える機会を設けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

年間を通してボランティアの受け入れが多く、利用者はたくさんの人と交流を深めることができ、楽しいひと時を過ごしている。職員は外出担当、レクリエーション担当、工作担当とそれぞれの担当者を決め、案を出し合って企画され、毎回利用者に喜ばれている。絵手紙は、にぎわい交流館の作品展に出品することで地域との交流に繋がっている。利用者の残存機能を維持する為にタオルを使ってのリハビリ体操、歌、ストレッチを365日かかさず行ったり、利用者に合わせて個別の運動も取り入れられている。今後は、共同で出来るレクリエーションを企画したり、下肢が弱くなっているので、機能訓練を重点に散歩やマシーンを使って強化したり、近隣の中学校との交流が出来るように働きかけていきたいと検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安全なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	前年はプロジェクトを使い理念の意味を研修として行っていたが今年度は資料を渡し研修とする形をとっている	理念の意味について、新人研修ではプロジェクトを使って伝え、その後は研修で資料を渡し共有することで、理念に沿って利用者一人ひとりに合わせた支援が出来るように努力している。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	さまざまなボランティアの方に来ていただいている今年度は保育園児との交流会を2回行うことができた。	散歩に出かける際は、近所の人や近くの中学校の生徒と挨拶を交わしている。近隣の保育園児の来訪があり、利用者と触れあったり、作品展に絵手紙を出品するなど地域交流の場を設けている。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだまだ認知症に対しての地域の方の偏見が多いように感じるが少しずつ民生委員の方々や包括の方々のご協力もいただき問い合わせやかかわることも増えてきた		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第3水曜日に行っており色々な意見や考え方・工夫を教えてもらい施設に反映している	小規模と合同で年6回開催され、ホームの活動報告を行い、各議題について意見や助言を受けてサービスの向上に活かしている。家族には交代で参加の依頼をしている。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険改正時や介護書類のわからない部分など教えてもらうことが多い。書類提出時などもとても助けていただいている	日頃から市の担当者とは電話や出向いて相談したり、ホームの現状について周知して貰えるように努めている。社会福祉協議会とは、ホームのパンフレットを置くなどの連携が取れている。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には行っていません。入所契約時には一応身体拘束の同意書	身体拘束は基本的にやっていないが、家族の了解を得て玄関、階段前は安全の為に施錠されている。身体拘束のマニュアルもあり、研修を行い職員の共通意識を図っている。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	利用者虐待についてどのような行為が虐待に当たるのか研修を毎年行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前年度までは後見人制度を利用されている人がいたが源氏の利用者は利用されている人はいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時各注意点や重要事項については家人に説明している納得したうえで入所していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家人からの要望にはできる限り施設に反映している	家族の面会時に利用者の様子を伝え、意見や要望が出た際はノートに記入して職員間で共有し、出来る事は速やかに対応している。利用者の要望は日々の支援の中で汲み取つたり、家族から聞き取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者の身体能力の変化などから職員の勤務時間の変更をしてことがある ま職員間の意見の食い違いなどにも双方から話を聞いている	日頃から職員とコミュニケーションを取って意見が聞けるようにしている。職員の意見等をリーダーがまとめて会議の際に出し、業務分担の見直しなどについて改善されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	介護に従事した期間だけで判断するわけではなく職員の性格や能力、利用者への接し方などから給与や賞与を判断している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月違ったテーマで研修を行っており介護職員はそれに対してレポートの作成を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉協議会や市が主催する連絡会や交流会などで意見交換をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前にはご本人にも施設内の様子や雰囲気を経験していただくために一度足を運んでもらうようにおお願いしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所契約のまえの見学時に家人から日常生活での困っていることや本人の様子を確認している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学に来た際、現在の様子を聞きグループホームよりもまだ在宅で生活できそうな場合は小規模多機能や訪問介護を薦めることもある		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場における、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者にたいして一方的に話す関係にならないように利用者の意見も尊重するように伝えている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場における、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家人との関係が希薄化しないように家人の面会や行事参加をお願いしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者の制限は特にいて以前の友人が遊びに来られる方もいる。ただし家族からの強い要望で家族以外の人が来たら面会も断ることがあります	友人、兄弟の来訪の際は居室で過ごしたり、年賀状、電話など今迄の付き合いが継続出来るように支援している。家族の協力の下、外食、買い物、墓参り、自宅に泊まるなど一人ひとりの生活習慣を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間のトラブルには職員が間にに入るようになっています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後にも利用されていた人のご家族から手紙をいただいたり街中で声掛けをしてもらうことがある		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	完全な意向の把握は難しいため本人の表情やしぐさで判断している	利用者と1対1で接するときに聞き取り易いので、積極的に職員の方からコミュニケーションを取るようにしている。それらの情報は職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に生活歴やサービスの利用状況を家族や他福祉サービス担当者に様子を聞く		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日常の様子や心身状態の変化に気を配り 变化を見つけた職員から管理者に報告を受け家人に連絡している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月各フロア会議で利用者の変化や個別のケアについて話し合っている	ケアプランチェック表を、毎日職員はチェックし、1ヶ月毎にフロア会議でそれを基に話し合いモニタリングを行い、介護計画に反映するようにしている。半年ごとの見直しであるが、状況変化があれば随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、水分摂取量表、排泄チェック表、バイタルチェック表等で介護情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族で移乗・移動させることができない利用者が受診する場合には送り迎えを手伝うことがある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者のやる気や活性化を図るために、地域ボランティアを活用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診は希望される方が利用できる。以前からのかかりつけ医を希望される方は継続して受診していただくことも可能	入居が長くなっている人は、当初のかかりつけ医からホームの協力医へ変更する場合が多くなっている。専門医へは基本的に家族対応としているが、車イスの人や立ち上がりれない人は職員が対応することもある。情報提供票を受けとることで病院間の連携ができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護者は日常の利用者変化に注意し看護職に申し送りしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に病院担当者に連絡をとり本人の様子を聞き早期退院をお願いしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に向けた方針は説明している。また重度化したときの家族の希望も確認しているが「その時の様子を見ない」とわからない、「考えられない」といった意見が多く、重度化したときには往診の際に往診医から今後の予測や説明を家人にしていく	入居時に重度化や終末期についての説明を行い、同意書をもらっている。重度化した場合、協力医の往診時に家族に説明をして、今後についての話し合いを行う。今年度は看取りを行っている。	看取りについての研修を行い、職員の精神面でのフォローも考慮されることを望む。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	緊急時マニュアルを研修で毎年行っている。AEDの備付けも検討しているが購入には至っていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練をおこなっている。災害時のマニュアルを年一回、研修でおこなっている	今年度は、年2回の自主避難訓練の際に、駐車場までの避難時間を計って訓練した。	消火や通報訓練なども加えた定期的な訓練を期待する。備蓄の用意も望んでいる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライド、プライバシーに配慮しながら対応している。職員の声掛けで気になる点があればその都度注意している	利用者を人生の先輩として尊敬し、一人ひとりの声かけや呼び方等に気を配っている。トイレ誘導などは、うまく声かけをして、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを伝えることができない利用者にはこちら側で予想して対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の一日の流れは決まっていますが無理強いはせず本人のペースで過ごしていただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容整髪ができない人には職員が手伝っている白髪染めを手伝うこともあった		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は宅配を利用している。利用者にもお皿拭きやヘタ取りを手伝ってもらっている	業者より食材が届き、職員が調理している。利用者も皮むきなどできることを手伝っている。利用者の状態に合わせ、きざみ食やとろみ食など食べられるよう工夫している。月1回外食デーとして、ランチを食べに近隣の飲食店へ出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嚥下状態によって水分のとろみや種類を変えている。食事も刻み食や軟飯など工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き誘導やできない方には補助をしている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	車いすの方や歩行不安定な方にもなるべくトイレで排せつしてもらうようにしている	職員は排泄チェック表より、個人の排泄状況を把握してトイレ誘導している。自立の人には、後から聞くなどの確認をしている。夜間は、リハビリパンツの人やポータブルトイレを利用する人もいる。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方が不穏になることがあるを職員には伝えている 水分を多めにとってもらうよう声掛けしている		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週三回入浴していただく 希望される方は他の日でも入浴することができる 体調不良の方は清拭を行っている	入浴時間は昼食後から夕方頃までで、ほぼ1日おきの入浴となっている。身体状況に合わせて、隣の小規模の機械浴に入る人もいる。拒否するときは、声かけや時間を工夫して入ってもらうようにしている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣に合わせて就寝していただいている 夜間電気を消すと眠れない人には消さない対応をすることもある		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬の危険性については研修やフロア会議でも伝えている		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月の外食や買い物レク、個別のレクリエーションや体操を取り入れている		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物外出レクなども行っており地域の4喫茶店にもこの事業所のことを知っていただけている	家族の要望もあるので、毎日職員と一緒に散歩に出かけている。外出レクリエーションで季節ごとのお花を見に出かけたり、愛知牧場へ出かけるなど外出する機会が多い。	

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を扱える人には財布渡している。ただしあまり大きい金額は家人に渡さないように伝えている		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	帰宅願望の強い時や家族に会いたいときは家人に連絡して電話越しに話してもらうことがある		
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁紙や習字などでは、その季節のものを飾ったり書いたりしている。フロアの電気はよく眠れるように真っ白な蛍光灯は使わないようにしている	グループホーム1階は、利用者がレクリエーションの作品作りができる人が少ないので、目で見て楽しめるようにと職員が作ったたくさんの飾り物であふれていた。利用者が不穏になった場合は、窓際に置いてあるソファーや、気持ちを落ち着かせる良い場所となっている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いで過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの片隅にソファを置き一人になりたいときはそちらで休むこともできる		
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には普段使っている生活用品を持ってきていただき少しでも慣れているもの使っていただく	テレビやラジオ、記念の時計など馴染みの物を持ち込み、また、家族の写真や自分の作品などが飾られ、安心して過ごせる居室となっている。各居室は壁紙とカーテンが同色で統一されており、温もりが感じられた。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の能力に応じて掃除や台拭きなどを手伝っていただいている		